

難「母お實親の組合さばつて御りませぬ。掛長に構はる御時おぢの故
怨「然」且て平岡日と健ぬて二々平岡日と村さよのさあるなと云
のさへ人間なす」

難「あるは難の辛不辛もあるはれを難さす苦難するのにお人前未
苦さ無難するよいつす。人間」へ半苦をする苦さ其おぢの交
言「健忘の身分けを出離日難の難くのお難なす。無難苦お振會半
怨「畜養の御時お實親困るを替つて来るなと困るの云え」
ご事なす」

言「自良の難の云えつて日々良の難るつて」又難はつてつて同
云「難」つて云え」

怨「ちれお母」のいひなると云えつて「難」の事お母お母」お母への
御時おまごつて自前難の来るのつて」
言「お母お母」のいひなると云えつて「難」の事お母お母」お母への
言「忘れずお事實土健忘お母お母」のつてお母お母」のつてお母

財團法人協調會大阪支所

果は非常なものです」

松「御前も内に居た時取つて居たかネ」

難「取る身分になつては居りませんでした」

松「矢張り親爺（掛長）の所へ持つて行つたか」

難「持つて行かねば身體がえらいから」

松「おれの所へ持つて来てくれ、ばよかつたとなないがネ」

難「梅部君を怠け者などとは眞實際言語同断ですこれは親爺（掛長）
との感情の衝突からです實際この位働く人は少ないです」

松「君は何時やめた」（難に）

難「十年七月十三日」

松「居て呉れ、ばよいに」

難「止めと云つたからです」

松「無茶をするからだ」

難「無茶はしません怠け者として會社を出されると忽就職に困りま